

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- 「自律」「協調」「進取」の校訓の下、自分自身で考え、行動できる人、他の人のことを考えられる優しい人、進んで新しいことに取り組める人の育成を行う。
- 1 基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。
  - 2 キャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り拓くことができる、社会の中でたくましく生きる力を育成する。
  - 3 学校生活の充実、活性化により、集団における規範意識、社会性を身につけ、よりよい社会の構成員を育成する。

### 2 中期的目標

- 1 基礎学力の充実
  - (1) 「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善に取り組む。
    - ア ICT活用授業改善推進チームを核に、公開授業や研究授業を効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、ICTを活用の授業改善と研究を進める。
      - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、授業内容のプラス評価を前年度以上とし、令和5年度には80%を目標とする。(H30-73% R1-69.9% R2-75.4%)
      - ※ 授業アンケートにおける、授業分析・生徒意識の評価を向上。令和5年度には85%・82%以上を目標とする。  
(H30-81.8%・78% R1-82.3%・79.3% R2-84.8%・81.5%)
      - ※ 学校教育自己診断(教職員)における、到達度の低い生徒に対する学習指導の評価を67%以上とし、令和5年度には75%以上を目標とする。  
(H30-65% R1-64.2% R2-73.5%)
    - イ 幅広い知識と教養を身につけ、新たな学習への意欲を高揚できるよう、読書を促進し、さらに有効な図書館活用を推進する。
      - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、読書状況を改善する。令和3年度は50%を目標とし、令和5年度には55%とする。  
(H30-51.5% R1-47.9% R2-45.0%)
  - 2 キャリア教育の計画的実施による、たくましく生きる力の育成。
    - (1) 「総合的な探究の時間」とLHR等を有機的に連携させ、キャリアパスポートを用いたキャリア教育、人権教育、道徳教育を実施する。
      - ア 各学年の計画から3年間を見通した計画に取り組み、キャリア教育、人権教育、道徳教育を主軸とした学習を実施する。
        - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、進路関係のプラス評価を前年度以上の数値を目標とする。(H30-89% R1-86.8% R2-86.1%)
        - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、人権について学ぶ機会、いじめなどの対応についての評価を前年度以上とし、令和5年度には83%以上とする。  
(H30-80% R1-78.3% R2-81.6%)
        - ※ 学校教育自己診断(教職員)における、創意工夫を生かした「総合的な探究の時間の評価」を70%以上とし、令和5年度には75%を目標とする。  
(H30-78.9% R1-64.2% R2-61.2%)
      - (2) 生徒個々の意欲・能力を伸ばし、進路実現の可能性を拡大する。
        - ア 学年・教科・分掌の連携を図り、進路別のゼミなどを通じて各自の希望進路が実現できる能力を育成する。
          - ※ 就職決定率100%を目標とし、就職・進学講習、各種検定等学習機会の充実。(H30-98% R1-98% R2-100%)
    - 3 教育活動の充実で、規範意識と社会性を身につけた、よき社会の構成員の育成。
      - (1) 学校行事、部活動の活性化を図り、規範意識と社会性を育成する。
        - ア 生徒会活動、部活動を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
          - ※ 部活動参加率55%以上へ向上。令和5年度には1年生の部活動参加率55%以上を目標とする。(H30-50% R1-54.2% R2-35.3%)
        - イ 授業・HR・行事におけるあらゆる場面において、市民としての自立と公民意識の育成を図る。
          - ※ 学校教育自己診断(生徒)における「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価を令和5年度には85%以上を目標とする。  
(H30-78.7% R1-80.9% R2-84.4%)
      - (2) 地域との連携の中で、社会性を育成し、各自が、自信と誇りを持てるように、能力と意識を高める。
        - ア 地域連携活動への参加を促進し、自信と誇りを高める。
          - ※ 学校教育自己診断(生徒)における「保護者や地域の人とかかわる機会がある」の評価を令和5年度には55%以上を目標とする。  
(H30-47.6% R1-50.9% R2-47.3%)
    - 4 学校運営組織の充実と指導力向上
      - (1) 授業研究・職員研修を積極的に進め、経験年数の少ない教員の授業力の向上と、学校全体の教育力の向上を図る。
        - ア 初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。また、計画的な職員研修を実施する。
          - ※ 学校教育自己診断(教職員)における、研修の成果に関する項目のプラス評価を令和5年度には80%以上とする。(H30-78.4% R1-79.6% R2-52.0%)

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<b>令和3年度全般</b> 本年度の学校教育自己診断「生徒アンケート」では、23項目中14項目が昨年度よりも肯定率が向上。肯定率が70%を超える項目も19項目あり、多くの生徒が本校での学校生活を肯定的にとらえている。それに対して「保護者アンケート」結果では、23項目中14項目が肯定率70%を超えてはいるが、昨年度よりも21項目中20項目が肯定率を下げた。「保護者アンケート」で5%以上肯定率を下げた項目は、「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」71.5%(-9.2)、「学校の雰囲気がよい」74.9%(-5.9)、「生徒がよく挨拶してくれる」45.0%(-10.1)、「先生は子どもを理解している」74.0%(-6.6)、「学校は、教育情報について、提供の努力をして	(第1回) R3.5.25(水) 書面開催 ・令和2年度学校評価及び令和3年度学校経営計画について ・学校運営協議会について ・学校経営計画学校評価について 学校運営協議会委員より ・教職員が共通した教育観を持つとあるがどのような教育観を期待しているのか。 ・生徒の学習意欲を高める授業が実施できる環境整備について、どんなことが整備不十分なのか。 ・就職ゼミに加え進路指導の充実とあるがどのような点か。 ・アルバイトにつとどこまでのことを徹底させるつもりか。

<p>いる」73.6%（-7.2）、「先生は子どもの評価を適切・公平に行っている」81.3%（-6.4）。コロナ禍の影響が少なからずあると考えるが、保護者からの厳しい評価については原因を分析し、次年度は改善に努めたい。</p> <p><b>【学習指導等】</b></p> <p>「生徒アンケート」結果では「学校に行くのが楽しい」72.0%「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」81.6%「先生は、自分が努力したことを認めてくれる」85.97%といずれも高い評価。「授業は分かりやすく楽しい」71.6%、「授業で、コンピュータやプロジェクターなどを活用している」94.1%と授業に対する満足度が高まっている。平成28年度の「学校教育自己診断」では同項目が53.5%であったことからみると、着実に授業改善が進んでいる。しかしその反面、図書室の利用率については38.6%と平成28年度の32.9%とほとんど変わらない状況にあり、活字離れは長年の課題となっている。1人1台端末となり、ICT機器の活用と図書館の活用、読書習慣等をどう関連付けるかが課題。</p> <p><b>【進路指導】</b></p> <p>「生徒アンケート」結果では、「将来の進路や生き方について考える機会がある」88.6%、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」88.6%と高い評価になっている。ここ数年「キャリア教育」が充実し、生徒の満足を得ている。また、進学においても進学希望者クラスの設置や進学講習を計画的に行い、公募入試で合格を決める生徒も複数名出た。今後は一般入試によって大学等の合格を決める生徒がでるよう進学指導を充実させたい。</p> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <p>各学年が遅刻指導に重点的に取り組んだことで遅刻回数は減少。年間の遅刻者数3,000件以下を目標に今後も取り組み、落ち着いた学校生活を送ることができるよう保護者と協力し、遅刻者指導を継続する。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <p>「教職員アンケート」結果では、肯定率70%を超える項目が25項目中19項目。90%を超える項目も7項目ある。「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」92.5%。新型コロナウイルス対応として臨時休業などの突発的な対応を迫られることがあったが、日常的に連携を取る教職員組織となっている。また「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている」90.2%など、前例に縛られるのではなく、時代と個々の生徒の特性を考えた指導を行う組織となっている。</p>	<p>その他の意見・質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスへの対応について 感染予防や公衆衛生に関する規範意識、知識や態度の育成も重要だとの意見があった。</li> <li>・災害時の対応について 平成30年の地震の際、学校へ電話が通じなかったことから、災害対応について「校内または登下校時の災害対応を考えてほしい」、「災害に対して学校や家庭で話しあうことができると良い」等の意見もあった。</li> <li>・進路指導について 「就職クラス」「進学クラス」の設置について意見があった。</li> </ul> <p><b>【第2回】R3.11.24（水）</b></p> <p>授業見学実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度使用予定教科書一覧</li> </ul> <p>授業見学について（6限目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6限の1年書道、情報と社会、地学および2年古典の授業を見学。</li> </ul> <p><b>【授業見学についての意見交換】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数年前と比べると授業の雰囲気随分と良くなり、しっかりと授業に向いていた。</li> <li>・授業をする教員もしっかりと声がおとり、わかりやすい授業を行っていた。</li> <li>・見学のために他人が教室に入っても集中力が途切れず、授業態度も良かった。</li> <li>・居眠りの生徒も少なくなったのではないかな。</li> <li>・プロジェクターを黒板に直接投影しているが、少し見にくい。（最近では色覚障がいがある生徒も少なくはない）。</li> <li>・プリント学習をしている授業が多いのが気になる。</li> </ul> <p><b>【協議内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化粧をしている生徒を多く見かけるが、指導はどうしているのか。</li> <li>・授業の中で主体的な活動はどのようにしているのか。</li> <li>・授業のレベルが上がってきているので、西寝屋川全受業共通の最低限のルールやマナーを決めてはどうか。</li> <li>・西寝屋川高校の良さを周辺の中学校にもっと伝えられないか。 HPをより良いものにしたたり、中学校とより交流を持ったり広報活動を活発にしてはどうか。</li> </ul> <p>令和3年度使用予定教科書について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用予定教科書の一覧表を配付し各委員にご覧いただいた。</li> </ul> <p><b>【第3回】R4.2.15（火）</b> 感染症拡大防止のため書面開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度進路状況</li> <li>・令和3年度学校教育自己診断</li> <li>・「令和3年度学校経営計画及び学校評価（案）」、「令和4年度学校経営計画及び学校評価（案）」について、学校運営協議会委員より承認を受ける。</li> </ul> <p>書面により寄せられた意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業、学習指導について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の授業アンケートの結果が前年度を上回る肯定的な意見が増加している。コロナ禍にあっても、各教員の努力により授業改善が進んでいる。</li> <li>・生徒たちの学習する姿が年々と良くなっている。授業参観では先生方の頑張っている姿も見ることができ、良かった。</li> </ul> </li> <li>○進路指導について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導において、「就職率100%」だけでよいのか。進路の環境変化や生徒・保護者の意向の変化、多様化を考えると「就職率100%」以外の目標も掲げるべき。</li> <li>・進学についての具体的な目標、「多様な進路希望実現への助力」、「進路について考えるための助力目標」も明示すべきと考える。</li> </ul> </li> <li>○行事、部活動等について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の良さをもっとアピールすべき。文化部も地域や小中学校と交流の可能性はある。</li> <li>・地域の方にも行事、学校の取り組みや生徒たちの頑張りを参観できるようにするとよい。</li> </ul> </li> <li>○その他             <ul style="list-style-type: none"> <li>・西寝屋川高校の最重点課題は「アルバイト問題」と考える。アルバイトのプラス面に着目し、マイナス面のコントロールとすべきでは。</li> <li>・授業の開始、終了時の挨拶を「規律、規範の意識の醸成」、「授業への集中」、「コミュニケーションのきっかけ」と関連づいた「西寝屋川授業スタイル」とし、「挨拶」ができる生徒の育成としてはどうか。</li> <li>・時間外勤務の削減は業務を特定し、取り組み方まで明示してはどうか。</li> <li>・アンケートの数字を追うことも重要であるが、数字のみにとらわれないようにすることも大事。</li> <li>・学力も大事だが、人間力を高め大きな社会変動にも負けない人材の育成が望まれる。</li> </ul> </li> </ul>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 基礎学 力の	(1)「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善に取り組む。 ア 公開授業・研究授業・授業ア	(1)ア・ICT活用授業改善推進チーム(IJKST)が核となり、本校の課題を各学年・各教科・分掌等で共有化のもと、目標設定を行い、学校全体として授業改善に取り組む。 ・生徒の現状を捉え、教職員が共通した教育観を持つ（職員研修等、事例発表）。 ・「わかる授業、充実した授業」の授業方略	(1)ア・各学年・各教科・分掌等で共有化のもと、目標設定を行い、学校教育自己診断（教職員）による分掌・学年間の連携のプラス評価を前年度以上とする。[75.5%] ・学校教育自己診断(生徒)による授業理解のプラス	・ICT活用授業改善推進チーム(IJKST)はオンライン学習等に対応するため再編成し、「Next 西寝(NN委員会)」委員会として授業改善等の課題に取り組んだ。学校教育自己診断（教職員）による分掌・学年間の連携のプラス評価は76.9%(+1.4%)であり、オンライン学習、観点別学習評価等、各学年・各教科・各分掌が連携

府立西寝屋川高等学校

<p>充 実</p>	<p>ンケートの活用 ICT 活用授業の 研究 学習到達度の低 い生徒への学習 指導 イ 読書の促進</p>	<p>を導入するため、生徒の課題克服を念頭 に、相互の授業見学で多様な授業スタイル を共有する。(年2回以上実施) ・到達度の低い生徒へのアプローチとして、 補習も含めた授業外の学習体制を促進。 ・授業において、教師がタブレットPC等を 活用して、生徒の学習意欲を高める授業が 実施できる環境整備を進める。  イ・図書室は学習においても活用し、さらに環 境整備を行い、本に親しむ環境を整える。</p>	<p>評価 80%以上。[75.4%] ・授業アンケート「授業分析」 「生徒意識」項目のポイント 向上。[84.8%、81.5%]  イ・学校教育自己診断における 読書状況の図書館利用率 50%を目標。[45.0%]</p>	<p>を取り課題に取り組んだ。(◎) ・授業アンケート項目⑦「授業分析」、⑧・⑨ 「生徒意識」については、昨年度の第1回、第 2回結果平均と同じ数値。「授業分析 3.39 (84.8%)」、「生徒意識 3.26 (81.5%)」(○) 授業改善については、この3年間着実に向上し ており、生徒の満足度も高い。1人1台端末を さらに活用し、学力向上につなげたい。 ・学校教育自己診断(生徒)による図書館利用 率は38.6%。映画化された書籍やコミックス化 されたものを揃えるなど生徒が興味を持つこ とができるように工夫しているが、読書離れを 止めることができない。(△)</p>
<p>2  たくましく生 きる力の育 成</p>	<p>(1)3年間の計 画的なキャリア 教育、人権教育 ア 「総合的な探 究の時間」に各 教科指導・LHR を連携させたキ ャリア教育 人権・道徳意 識の向上 (2)進路実現の可 能性を拡大 ア 各進路希望別 ゼミの充実に よる希望進路 の実現</p>	<p>(1)ア・「HR等計画委員会」が中心となり、「総合 的な探究の時間」の活用に向けて、現状分 析と課題把握、今後の方向性と課題解決策 の策定に取り組み、希望進路の実現を図る。 ・外部人材を活用した、より広い観点からの キャリア教育を行う。また、人権の生徒向 け、教職員向けの研修を実施し、人権・道 徳意識を高める。 (2)ア・進学希望者の意識・学力の向上をめざし た教育活動を積極的に進める。 ・進路実現をめざした、「自ら発信する力」 の醸成をめざし、授業をはじめ、様々な指 導の場面において「挨拶」の励行を推進す る。 ・進路決定後の進路別の接続を意識した学 習の在り方を検討する。</p>	<p>(1)ア・学校教育自己診断(教職 員)の総合的な探究の時 間のプラス評価70%以上。 [61.2%] ・学校教育自己診断(生徒) による進路関係のプラス 評価を前年度以上にする。 [86.1%]  ・人権・道徳教育の肯定率を 前年度以上にする。[81.6%] (2)ア・学校教育自己診断(生徒) 「挨拶は自分から進んで行 うよう心掛けている」の肯 定率75%以上を維持する。 [76.8%] ・就職ゼミによる就職決定者 に「社会人講座」等の就職 前指導を実施。就職決定率 100%をめざす。[100%]</p>	<p>・学校教育自己診断(教職員)の総合的な探究の 時間の評価は74.0%(+12.8%)。昨年度はコロ ナ禍により、計画の変更を余儀なくされたが本 年度は昨年度の反省を生かし計画的に実施で きた。(◎) ・学校教育自己診断(生徒)、進路関係のプラス 評価は前年度よりも2.5%向上の88.6%。就職オ リ・就職ゼミに加え、3年生進学講習、2年生 プレゼミ等進路指導を充実させた。(○) ・人権・道徳教育の肯定率は83.6%(+2)コロ ナ禍ではあるが他人を大切にすることを育 むことができている(○) ・学校教育自己診断(生徒)「挨拶は自分から進 んで行くよう心掛けている」の肯定率は 72.8%(-4.0%)(△)3年生の肯定率が67.3% と他学年よりも低く、改善が必要。 ・昨年に引き続きコロナ禍の影響はあったが、 就職指導は計画的に実施することができた。就 職決定率94%(○)</p>
<p>3  規範意 識と社会 性を身に つけたよ き社会の 構成員の 育成</p>	<p>(1)学校行事、部 活 動の活性化 ア 集団の中で人 と調和しながら 活動できる能力 の育成 (2)地域との連携 の中で社会性 を育成 ア 地域連携活動 参加を促進し、 自信と誇りを 高める</p>	<p>(1)ア・新入生全員加入期間を複数回実施するな ど部活動参加促進の取組みを積極的に進め る。 ・朝のSHRで遅刻防止、健康把握を行う。 ・交通安全週間の定期的な実施で、交通マナ ーの徹底を図る。 ・アルバイト指導の徹底、授業規律の確保等、 学習を重んじる姿勢、社会人としての規範 を身につける指導を展開する。  イ・授業・HRのみならず、学校行事の中でも 公民教育(主権者教育)を展開する。  (2)ア・地域あいさつ運動、校区生徒会交流行事 等へ積極的に参加し、地域連携を進めると ともに、生徒の自尊感情の育成を図る。 ・行事公開、授業公開により、開かれた学 校づくり、誇りを持てる学校づくりを進め る。</p>	<p>(1)ア・1年生の部活動加入率 55%以上を目標。 [32.9%] ・全体の遅刻回数をのべ3000 回以内とする。[2,492回] ・PTAと連携し、年間2回の 登校時の交通安全指導を実 施。学校教育自己診断(生 徒)による「社会のルールを 学ぶ機会がある」の評価 85%以上。[84.4%] ・保護者向け学校教育自己診 断の「家庭への情報提供」 に関する前年度肯定率を維 持。[80.8%] イ・学校行事に主体的に取り 組む生徒を育成。学校教育自 己診断(生徒)「学校行事は 楽しく行えるように工夫さ れている」の評価を90%以 上とする。  (2)ア・校区内のあいさつ運動 参加(年2回)、近隣小中 学校との部活動体験・交 流、寝屋川支援学校との 交流を通じ、生徒の自尊 感情を育成。学校教育自 己診断(生徒)における 「先生は、自分が努力し たことを認めてくれる」 の評価を80%以上とする。 「保護者や地域の人とか かわる機会がある」評価 を55%以上とする。 [47.3%] ・地域・保護者に向けた授業 公開を年間2回実施し、開 かれた学校づくりを進め る。</p>	<p>・1年生の部活動加入率は37.5%。近隣の中学 生を対象とした男女バスケットボール部によ る西寝杯を2年ぶりに実施するなど、昨年度よ りも各部は活動を行ったが、加入率は大きく向 上しなかった。ホームページを活用し各部の活 動を載せ、校内外への発信を行っているが、ま だ効果は出ていない。次年度も活性化への取組 みを行う。(△) ・遅刻回数のをべ3,000回以内。令和3年度2,214 回。前年度より283減。(◎) ・コロナウイルス感染拡大防止の観点からPTA との登校時の交通安全指導(年2回)は本年度 も中止。(一) ・学校教育自己診断(生徒)による「社会のルー ルを学ぶ機会がある」は85.6%(○) より一層の向上を望みたい。 ・保護者向け学校教育自己診断の「家庭への情 報提供」は73.6%。PTAメールや学習支援クラ ウドサービスを通じて昨年度よりも情報発信 の頻度を増やしているが、肯定率が7.2%下がる 結果となった。(○) 保護者が求める情報について検討し、ニーズ に合った情報を提供できるよう検討を行う。 ・学校教育自己診断(生徒)「学校行事は楽し く行えるように工夫されている」は85.5%。昨 年度よりも3.5%下がる結果となった。(○) コロナの影響があり、実施時期を変更したこ とで2学期に行事が集中し、2年生修学旅行、 3年生進路実現への時期と重なった。生徒自身 への負担が増えたことが影響したと考えられ る。(○) ・「先生は、自分が努力したことを認めてくれ る」85.9%(+0.1%)(○)、「保護者や地域の人 とかかわる機会がある」は46.9%(-2.4)(△)</p>

府立西寝屋川高等学校

			<p>近隣中学校のバスケットボール部（男女）を対象に実施する西寝杯、生徒会・フォークソング部による寝屋川支援学校との交流会はできたが、感染拡大防止から実施できなかった交流行事が本年度もあり、外部との交流から生徒の自尊感情を育てる場面を十分に作る事ができなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症拡大防止の観点から保護者のみを対象とした授業公開、学校運営協議会委員による授業見学を各1回行った。(○) コロナ禍が治まることを期待したい。</li> </ul>
<p>4 学校運営組織の充実と指導力向上</p>	<p>(1) 経験年数の少ない教員の指導力の向上 ア 初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。 職員研修を実施し、学校全体の教育力の向上を図る</p>	<p>(1) ア・校内の初任者育成研修「スタスタ研」、授業研究、ケース研究の機会を拡大し、授業力の向上、生徒指導力の向上、教育相談技術の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の抱える課題、指導の在り方などについて共有する場を設ける。現状の改善に向け、「チーム西寝屋川」として取り組む体制を整える。そのための職員研修を実施する。</li> <li>・授業アンケート、学校教育自己診断のデータを用いて、各教科内で教育・学習課題の共通理解を図り、Can-do-listを更新する。</li> <li>・働き方改革の促進。部活動基本方針に則り、ノークラブデー等の徹底。ICT機器を用いた教材作成、データ共有による効率的な授業準備。</li> </ul>	<p>(1) ア・学校教育自己診断による研修成果の共有」の評価を80%以上とする。 [52.0%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断、相談に関する評価を前年度以上にする。[71.3%]</li> <li>・職員研修を計画的に年4回以上実施。(防災・人権・授業改善等)</li> <li>・各教科 Can-do-list を更新し、観点別学習評価へ取り組む体制を構築する。</li> <li>・各部活動、ノークラブデー実施等による時間外勤務40時間超教員数を前年度比10%削減。</li> </ul> <p>・学校教育自己診断による「研修成果の共有」は53.8%(+1.8)。互見授業の回数、外部研修の結果を教職員全体で共有する場がこの2年間減少している。学校としては教職員がオンデマンドで研修(学習)できるコンテンツを導入し、授業力向上、教員資質向上に対応している。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断、相談に関する評価は71.4%昨年度とほぼ同数値。学校生活への不安について、生徒が相談しやすい雰囲気を作ることができている。(◎)</li> <li>・人権研修(1回)、観点別学習評価に関する研修(4回)実施。(○)</li> <li>・各教科オンライン授業に向けての試行は完了。臨時休業に対応できる体制を各教科作ることができた。Can-do-listの更新、教科横断的な取り組みは行うことができなかったが、各教科「観点別学習評価」の試行を2学期に行い、改善点など全体共有を終えた。次年度からの実施に備えることができた。(◎)</li> <li>・時間外勤務者数10%削減に取り組んだ結果、前年度よりも28人減少し、15%減を達成。業務改善を引き続き行い、40時間超の時間外勤務削減に取り組みたい。(◎)</li> </ul>